

「ラウレル」フィリピン國大統領歸國挨拶ノ際ニ
於ケル懇談要旨

(昭一八、一一、二〇(水)一六二五—一七二〇)
於内閣總理大臣官舎小客間

◎ラウレル大統領發言要旨

「十二日歸國ノ豫定ナリ。此ノ機會ニ「フィリピン」獨立ノ際、日
本政府ノ「フィリピン」政府ニ寄セラレタル、數々ノ好意、又滯
在中、一行ニ臨リタル御親切ニ對シ衷心ヨリ謝意ヲ表明ス。
最近ノ南太平洋ニ於ケル大戦果ニ祝意ヲ表ス。
「謝團」上、大東亞會議共同宣言ノ趣旨ヲ、議會ニ於テ表明スルト
共ニ、之ヲ敷衍シテ、民衆ヘノ徹底ヲ期セントス。

32p1062

一、閣下ノ御許シテ得テ、「フィリピン」國內事情ニ就キ、報告致度
黒田最高軍司令官、和智參謀長竝ニ村田大使等、偉大ナル軍人、
政治家ヲ派遣セラレアルコトニ謝意ヲ表シ度ク、「フィリピン」
政府トノ關係現在、又、極メテ圓滑ナリ。

一、余ハ、大統領就任以來、日、尙淺ク、歸國後ハ、大東亞會議共同
宣言ノ精神ニ則リ、着々、抱負ヲ實現シ度キ考ヘナリ。

之ニ關聯シ、二、三甲上ゲ度

(1) 日本人顧問、専門指導官派遣ノ件。

大使館ヲ通ジ、余ノ受領セシ、日本側ノ案ハ、總數二百廿人ト
云フ案ニ有之、率直ニ申上グレバ、「フィリピン」獨立政府ト

見紛フ感ナキニシモアラズ。

農業、工業、財政經濟ノ専門部面ニ付テハ、是非共、日本ノ専門家ヲ要スベキモ、政治部面ニ於テハ、余ハ自信アリ、日本顧問ノ指導ノ要無シト考フ。斯クノ如キ大組織ヲ擁スル秋ハ、「フィリピン」政府ガ、恰モ、傀儡政府ナリトノ惡印象ヲ興フベシトノ危惧ヲ有ス。

(2) 「フィリピン」國ニ於ケル治安ノ概要。

治安ノ確保ノ爲ニ、出發前ニ、軍司令官、大使ト協議シ、根本問題ニ付、了解ヲ得タリ。

即チ、大統領ノ大赦令ヲ公布シ、未ダ山地ニアリテ帝國ノ眞意

ヲ解セザル「フィリピン」同風ニ斷願ノ機會ヲ與ヘルコトトシ、
之ニ關聯シ、所要ノ二、三ヶ月ノ期間ニ於テハ原則トシテ、軍
ニ於テ軍事行動ヲ停止シ、以テ斷願ヲ容易ナラシメラレ度キ旨
申出テ略々了解ヲ得タリ。之ニ依リ、治安ノ回復モ、更ニ一段
ト進歩シ、「フィリピン」モ生産増強ニ邁進シ得ルコトト考フ。

(5) 眞ノ指導者トシテノ陣頭指揮ノ件。

余ハ、身ノ危機時ハ、何等顧ミ居ラズ、直接民衆ニ接シ、政府
ノ意ノアル所ヲ滲透セシメテ、治安ノ確保ニ資シ度、之ニ付キ
甚ダ悉縮作ラ、御慮ヒアリ。

即チ、大統領政ニ「フィリピン」政府用トシテ飛行機一臺ト、

船一隻ヲ所望致度。御承知ノ如ク、「フイリビン」ハ島嶼ガ多ク、之ヲ巡視スルニハ飛行機ヲ要シ、又飛行機ノ行ケナイ所ニハ、船ヲ行ク要アリ。

從來トテモ、軍ヨリ種々、御配慮ハ受ケ居ルモ、專屬ノモノヲ御考慮願度。

一、只今ハ、閣下ヨリ立チ所ニ飛行機ノ御贈與ヲ受ケ、恐縮ニ不堪、既ニ、「フイリビン」トシテハ一方的ニ、既ニ數々ノ御好意ニ接シアリ、余トシテモ、何等、未ダ貢獻スルコト無ク、此ノ點恐縮ニ存ズルト共ニ、氣懸リナリ。殊ニ、過去ノ「フイリビン」ノ日本ニ對スル態度ヲ想ヒ、慚愧ニ堪ヘザルモノアリ。

(4) 地方巡視ノ爲、一「フィリピン」領内、各地軍官憲ト曾見懇談ノ

爲、二ヶ月間文ケ濱本君ヲ御借用致度。

一、斷國ニ接シ、更メテ、日本國ヘノ忠誠ヲ表シ度ク。又閣下ニハ御

多忙ニ付、吳々モ、御健康ニ留意セラレ、大東亞ノ爲、此ノ上ト

モ御奮闘アラシコトヲ祈念シテ止マズ。

◎總理應答要旨

「ラウレル」大統領ノ大東亞會議ニ於ケル協力ニ謝意ヲ表シ、健康ヲ見舞フ。

「帝國トシテモ、大東亞會議共同宣言ノ精神ヲ末梢ニ至ル迄、旗策ノ上ニ、更ニ反映セシメンコトヲ期ス。

「此ノ機會ニ特ニ一言申上ゲ度

此ノ度ハ、他トノ關係モアリ、行政府ノ最高長官トシテノ資格ニ於テ、閣下ノ御來訪ヲ得タルモ、更ニ近キ機會ニ、大統領ノ資格ニ於テ、國家ノ元首トシテ御來訪セラレンコトヲ御待チ申ス。

此ノ節ハ、宮中ニ於テモ、政府ト致シマシテモ、元首トシテノ資

格ニ於テ御取扱ヒ申上グベシ。此ノ點不悞御諒承願度。

一、閣下ガ最高軍司令官並大使ト緊密ニ連絡ヲ保タレツツアルコトニ對シテハ、兼テ承知シ居リ、喜ビアリ。

サレド、只今ノ二百廿人ノ顧問顧問指導官ノ問題ハ初耳ナリ。斯クノ類キ大多數ノモノチ、日本トシテ、派遣スル余祐モ無ク、又之チ「フイリピン」國ニ押シ付ケル意思ハ、毛頭無シ。御要求アレバ、派遣スル丈ケノコトナリ。閣下ハ「フイリピン」國ノ元首トシテ、本件ヲ決定セラレ可然モノニシテ、貴方ニ於テ、充分御検討ノ上、所要ノ人員ヲ要求セラレ度。

一、治安ノ確立ニ付、御話シテ承リタルガ、此ノ上トモ軍ト策應シテ、

一日モ早ク、完璧ヲ期セラレ生産ノ増強ニモ、先ヅ治安第一ト
思考ス。

一、御話ノ大畧令ニ付テハ、具体的方法ニ付テハ、現地軍ト隔意ナキ
意見ノ交換ヲ行ハレ、實行サレ度。余ハ特ニ隔意ナキ意見ノ交換
ヲ強調致度。

一、大統領專斷ノ飛行機一臺、余ハ早速、大統領就任ノ御祝ヒトシテ
閣下ニ送上グベシ。

(直チニ加藤中佐ニ下命セラル)

船ニ付テハ、海軍大臣ト協議シ、早速研究致ス可シ。

(船型、大イサ等詳細ヲ聴取セラル)

一、飛行機ノ操縦士並ニ保管ニ付テハ、軍ニ預ケラレ、又日本人飛行士ヲ使用セラルルコトトセラルベシ。

大統領附操縦士トシテハ、技術的信用ノミナラズ、閣下自身ニ對シ、絶對忠誠ノモノナルヲ要ス。操縦士ハ、少クトモ四年間ノ訓練ヲ要スベク、「フイリピン」人適格者ヲ日本ニ於テ、訓練シテ差上ラベキモ、當分間ニ合ハズ。又閣下ニ對スル忠誠ノ點ニ付テハ、万一閣下ヲ敵地區ニ拉致スルガ如キコトナキヲ保セズ。又部分品ノ取換ヘ、機体ノ點檢等ニ付テモ然リ。故ニ閣下ノ飛行機トシテ、軍ニ預ケラレ、日本軍ノ飛行士ヲ使用セラルルコト、安全

ト恩考ス。

一、閣下ヨリ大體悉縮ナル御職ニ接セシモ、兄弟ニハ遠慮ハ要ラズ。

水奥キコトハ一切巳ノラレ度。

一、濱本君チ御貸スル件、茲ニ週間位ノ後ナレバ結構ナリ。

一、最後ニ、閣下ニハ殊ニ御健康ニ留意セラレ、此ノ上トモ「フィリ

ピン」ノ爲將又、大東亞民衆ノ爲、一層ノ御敢闘ヲ祈ルモノナリ。

一、閣下ニハ一通リ御仕事チ終ラレタル後、大統領トシテノ資格ニ於

テ、來訪セラレンコトヲ希望ス。

本會談ニ際シテハ案内役トシテ松井「フィリピン」班長及星野書記官

長陪席ス。通譯ハ濱本氏。